

柏崎税務署長賞

『消費税って何のため?』

新潟県立柏崎翔洋中等教育学校 三年 小野塚 舞

最近、参議院選挙があったことに伴いそれに関するニュースを見る機会が多々ありました。各政党の公約には物価上昇対策や消費税などお金に関する話題が多く取り上げられていました。その中で私が興味を持ったのが消費税です。

まず、集めた消費税は何に使われているのでしょうか。その多くは「社会保障」の財源です。社会保障とは、私たちが安心して生活するために必要な「年金」「健康保険」「児童手当」などの公共サービスのことです。これらの支出は国の予算の中で大きな割合を占めており、その安定した財源として消費税が重要な役割を果たしています。

消費税は景気の影響を受けにくく誰もが広く負担するため公平だとされています。しかし、消費税には所得の低い人ほど負担が重くなるという問題があります。つまり、消費税は社会保障の財源としてふさわしくないということです。この負担を減らすために私たちにできることがあるのでしょうか。私なりに考えたことを二つ紹介します。

一つ目は、「税金の無駄使いをなくす」です。例えば救急車の利用について考えてみましょう。救急車の出動は一回あたり四万五千円の費用がかかります。令和四年の出動数は約七百二十万件であり年間三千億円以上になります。そのうち四十五パーセントは軽症だったそうです。「病院に行く手段がない」「眠れない」などで救急車を呼ぶのは不適切です。もし本当に必要な場合だけ利用すれば一千万円以上の節約になります。国民一人ひとりが意識して公共サービスを適切に利用できるようになることも大切だと思います。ただ減税するのではなくこうした国民への呼びかけも重要なのではないかと思います。

二つ目は、「政治に積極的に参加する」です。最近の選挙では、投票率が五割ほどしかなく、若い世代ほどその割合は下がっていきます。選挙に行かずに「税金が高すぎると不満を言うのは無責任です。自分の意見を政治に反映させるために投票することが大切だと思います。時代は日々進化しています。しかし、選挙方法は始まって以来あまり変化していません。そこで、インターネットなどでも投票できる環境を整えていく必要があると思います。

今回、消費税について調べて考えていく中で、その役割や問題点について知ることができて良かったです。未成年の私はまだ政治に参加することができませんが、まずは社会の仕組みに関心を持ち、考えることから始めようと思います。身近なことから学ぶ姿勢を大切にし、将来は自分の意見をもって社会と関わっていききたいと考えました。